

JAふくしま未来 福島地区本部【果樹防除情報 7月号】

ふ未福営発第318号
令和7年6月27日

○早生ももの収穫期に入ります。収穫前日数に注意しましょう！
●園地の状況を確認の上、地域差も考慮し適期防除に努めてください。
【住宅に隣接している園での散布時間帯については、早朝5時以降開始にご協力ください。また、通勤や通学の時間帯も避けてください。】

※不明な点がございましたら、担当営農指導員にお問い合わせください。

今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせていただきます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

【も も】(防除暦 29～30頁参照)

注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍(10cc)又はラビデン3S 10,000倍(10cc)を使用する。

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
11	7／10頃	灰 星 病 ・ ホ モ プ シ ス 腐 敗 病 (せ ん 孔 細 菌 病) (ハ ダ ニ 類)	1. 展着剤 2. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc)	300ℓ
		1. 中晩生種(まどか以降)で、せん孔細菌病の発生がみられる園ではバリダシン液剤500倍(200cc)も使用する。なお、菊の隣接園ではバリダシン液剤に替えてスターナ水和剤1,000倍(100g)を使用する。但し、両剤とも早生種及び中生種には使用しない。 2. ハダニ類の発生密度が低い時期にダニゲッターフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。		
12	あかつき 収穫直前 7／20頃	灰 星 病 ・ ホ モ プ シ ス 腐 敗 病 (モ モ ハ モ グ リ ガ ・ シ ン ク イ ム シ 類) (ハ マ キ ム シ 類 ・ ア ザ ミ ウ マ 類 ・ カ イ ガ ラ ム シ 類)	1. 展着剤 2. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g)	300ℓ
		1.シンクイムシ類、モモハモグリガの発生が見られる場合は、ディアナWDG5,000倍(20g)も使用する。なお、収穫が終了した園地でも発生が見られる場合は使用する。 2.カイガラムシ類の発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。		
※収穫が終了した園にも、シンクイムシやモモハモグリガ対策として殺虫剤のみの散布をお願い致します。				
13	7／30頃 中晩生種収穫直前 晩生種除袋後	灰 星 病 ホ モ プ シ ス 腐 敗 病 すすかび病 果実赤点病 モモハモグリガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	合ピレ剤使用可能地域 1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. スカウトフロアブル 2,000倍 (50cc) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. ナリアWDGはピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずる恐れがあるので、注意して散布する。		

【りんご】(防除暦 54～55頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
9	7／8頃	斑点落葉病・輪紋病 褐斑病・炭そ病 すす点・すす斑病 ハダニ類・(カミキリムシ)	1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)	500ℓ
		1. カミキリムシ、ヒメボクトウ対策は64ページ別表2を参照する。 2. ナリアWDGは、ピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずる恐れがあるので注意して散布する。		
10	7／18頃	炭そ病・斑点落葉病・輪紋病 黒星病・褐斑病・黒点病 すす点・すす斑病・腐らん病 (カメムシ類)(シンクイムシ類) (ハマキムシ類)(キンモン・ギンモン) (アブラムシ類)	1. 展着剤 2. トップジンM水和剤 1,500倍 (65g) 3. オーソサイド水和剤 600倍 (165g)	500ℓ
		1. 隣接園に注意して散布する。 2. カメムシ類及びスモモヒメシンクイの発生が多くみられる場合は、合ピレ剤使用可能地域では、イカズチWDG1,500倍(65g)も使用する。		
11	7／28頃	斑点落葉病・輪紋病・褐斑病 炭そ病・腐らん病・すす点・すす斑病 シンクイムシ類・キンモンホソガ・ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ・アブラムシ類 (ハダニ類)(カイガラムシ類)	合ピレ剤使用可能地域 1. 展着剤 2. フリントフロアブル 3,000倍 (33cc) 3. ヨーバルフロアブル 1万倍 (10cc) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. 展着剤 2. フリントフロアブル 3,000倍 (33cc) 3. オリオン水和剤 1,000倍 (100g)	500ℓ
		1. 隣接園に注意して散布する。 2. ナミハダニの発生が見られる場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍(100cc)を今回以降使用する。 3. ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)の重要防除時期のため発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。		

【 な し 】幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋等（防除暦82～83頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度（水100ℓ当り）		SS 散布量
11	7／6頃	黒 星 病 ・ 輪 紋 病 シ ン ク イ ム シ 類 カ イ ガ ラ ム シ 類	1. カナメフロアブル 4,000倍 (25cc)		300ℓ
			2. オーソサイド水和剤 600倍 (165g)		
			3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)		
		1. モモの隣接園では、かからないよう注意する。			
12	7／16頃	黒 星 病 ・ 輪 紋 病 （カメムシ類）（シンクイムシ類）	1. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)		300ℓ
			1. カメムシ類の発生が多い場合は、合ピレ剤使用可能地域では、イカズチWDG1,500倍（65g）も使用する。 2. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。		
特別散布	7月下旬	ハ ダ ニ 類	1. カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)		300ℓ
13	7／26頃	黒 星 病 シ ン ク イ ム シ 類 ・ カ メ ム シ 類 （カイガラムシ類）（ハダニ類）	1. インダーフロアブル 1万倍 (10cc)		300ℓ
			2. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)		
		1. ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）の発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍（33g）も使用する。 2. モスピラン顆粒水溶剤は「新高」「長十郎」に薬害を生ずるおそれがあるので十分注意する。 3. ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍（50cc）も使用する。また、今回散布後5～7日後にも使用する。 なお、アカリタッチ乳剤は最後に混用する。			

【 な し 】二十世紀・南水（防除暦91頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度（水100ℓ当り）		SS 散布量
11	7／6頃	黒 斑 病 ・ 黒 星 病 シ ン ク イ ム シ 類 カ イ ガ ラ ム シ 類	1. カナメフロアブル 4,000倍 (25cc)		300ℓ
			2. オーソサイド水和剤 600倍 (165g)		
			3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)		
		1. モモの隣接園では、かからないよう注意する。			
12	7／16頃	黒 斑 病 ・ 黒 星 病	1. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)		300ℓ
			1. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。		
特別散布	7月下旬	ハ ダ ニ 類	1. カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)		300ℓ
13	7／26頃	黒 斑 病 ・ 黒 星 病 （シンクイムシ類・カメムシ類・カイガラムシ類）	1. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g)		300ℓ
			1. 南水でシンクイムシ類の発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍（50g）も使用する。 2. ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）の発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍（33g）も使用する。		

【 ぶ ど う 】（防除暦 127～128頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度（水100ℓ当り）			SS 散布量
9	7月上旬頃	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 アザミウマ類・クビアカスカシバ （べと病）	1. オンリーワンフロアブル 2. ディアナWDG	2,000倍 1万倍	(50cc) (10g)	200ℓ
		1. べと病の発生が多い園では、レーバスフロアブル2,000倍（50cc）も使用する。 2. 今回散布後、速やかに袋掛けを行う。 3. 果紛を溶脱するおそれがあるので十分注意して散布する。				
防虫袋の使用については、7月15日までとする。（防虫袋のかけ直しは行わないこと。）						
特別 散布	袋かけ直後	ハダニ類・ブドウサビダニ （べと病）（チャノキイロアザミウマ） （クビアカスカシバ）（コガネムシ類）	1. 展着剤 2. コロマイト水和剤	2,000倍	(50g)	200ℓ
		1. ハダニ類の発生が見られる園では使用する。 2. べと病の発生の多い園では、レーバスフロアブル2,000倍（50cc）も使用する。 3. コガネムシ類の発生が多い場合は、テッパン液剤2,000倍（50cc）も使用する。				
10	7／25頃 袋かけ後	黒とう病・べと病・さび病 フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 コガネムシ類	1. ①アビオンE ②ICボルドー66D または 4-4式ボルドー液 ①アビオンE ②生石灰 ③硫酸銅 2. スカウトフロアブル	1,000倍 50倍 1,000倍 2,000倍	(100cc) (2kg) (100cc) (400g) (400g) (50cc)	300ℓ
		1. 今回以降、10a当たり300ℓ以上散布すること。 2. さび病の発生が多い園は、被袋後すみやかに薬剤を散布すること。 3. ももに隣接する園では汚れを生ずるので、注意して散布する。 4. スカウトフロアブルは、ICボルドー66Dまたは4-4式ボルドー液との調整を使用直前に行う。 5. ICボルドー66Dまたは4-4式ボルドー液に替えて、ムッシュボルドーDF500倍（200g）をクレフノン100倍（1,000g）加用で使用してもよい。				
特別 散布	7月下旬頃	クビアカスカシバ	1. サムコルフロアブル	5,000倍	(20cc)	300ℓ
		1. 前年クビアカスカシバの発生が多い園は散布する。				

【 お う と う 】(防除暦 147頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS散布量
10	被覆資材除去1週間後	ハダニ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. ダニゲッターフロアブル 2,000倍 (50cc)	500ℓ
11	7／20頃	褐色せん孔病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類・(ハダニ類) (カイガラムシ類)	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. オキシラン水和剤 600倍 (165g) 3. スミチオン乳剤 1,000倍 (100cc)	500ℓ
		1. 今回以降ハダニ類の発生がある場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)を使用する。ただし、5日～7日後にもう一度散布する。また、アカリタッチ乳剤には展着剤を使用しない。 2. カイガラムシの発生が多い場合はアブロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。		

【 か き 】(防除暦157～158頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS散布量
5	7／1頃	落葉病・炭そ病 うどんこ病 カイガラムシ類・ハマキムシ類	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	400ℓ
		【落葉病、重要防除時期】		
6	7月下旬頃	落葉病・すす点病 炭そ病・うどんこ病 カメムシ類・フジコナカイガラムシ イラガ類・アメリカシロヒトリ	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,500倍 (65g) 3. スミチオン乳剤 1,000倍 (100cc)	400ℓ

【 す も も 】(防除暦170頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS散布量
9	7／15頃 (ソルダム収穫直前)	灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 2. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、フェニックスフロアブルは使用しない。 2. ナリアWDGは、「ピオーネ」・「ル・レクチェ」に薬害を生ずるおそれがあるので注意して散布する。		
10	7／30頃 (貴陽、太陽収穫直前)	灰星病 シンクイムシ類	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc) 2. スカウトフロアブル 2,000倍 (50cc)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、スカウトフロアブルは使用しない。		

【 ネ ク タ リ ン 】(防除暦 191頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS散布量
10	7／1頃	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病・モモハモグリガ シンクイムシ類・アブラムシ類・カメムシ類	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1.ナリアWDGはピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずる恐れがあるので、注意して散布する。		
11	7／11頃	灰星病・ホモプシス腐敗病 黒星病・(ハダニ類)	1. 展着剤 2. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc)	300ℓ
		1. ハダニ類の発生密度が低い時期に、ダニゲッターフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。		
12	7／21頃	灰星病 (シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g)	300ℓ
		1. シンクイムシ類の発生が見られる場合はフェニックスフロアブル4,000倍(25cc)も使用する。		

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

☆農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。
散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に隣接している園地では十分注意して散布をお願い致します。また、希釈倍数・散布量・散布時期(収穫前日数)にも十分注意してください。